

第2回 人権研修会

12月9日（水）に第2回人権研修会を行いました。

『(身体障害のある)はまっ子スタッフとして本校の児童生徒とかかわって』～平方 明生氏の生き方を通して～』というタイトルで、45 分間のお話を伺いました。今回は、コロナウイルス感染症対策の観点から 2 部制にし、録画した講演を視聴する研修となりました。平方さんは、身体障害（肢体障害）と呼吸器疾患があり、現在は酸素ボンベを携帯して生活しています。中学校から養護学校の高等部、大学の社会福祉学科へ進学し、はまっ子スタッフとして児童生徒とかかわるなど、平方さんの人生や思いを伺いました。

講演では、特別支援学校の生徒であった経験から

- ①生徒の進路は、幅広い選択肢を考えてほしい。
（実態を考えて幅広い考え方を）
- ②NO と言える立場があることも教えてほしい。
（子どもたちの意思を尊重してイエスだけでなく NO と言える環境を）
- ③「障害が個性だ」と言えるのは本人のみ。
（個性が障害ではなく、ほかに個性があるのでは？）

と考えるようになったということでした。

また、はまっ子スタッフとして児童生徒とかかわる中で「児童生徒の年齢に応じた適切なかわり」や「人権的配慮、人権意識」について考えたという実体験や「子どもたちは社会を構成する一員である。お互いが対等で節度をもった上で生きることが共存共栄なのだ」というお話を伺いました。この講演会では、人権的配慮や人権意識について、これからの支援、指導で意識していこうと改めて考えさせられた研修でした。

